

おきたま大豆づくり情報



質の良い大豆を沢山作って届けましょ
ニ！

大豆づくりは土づくりと排水が決め手！

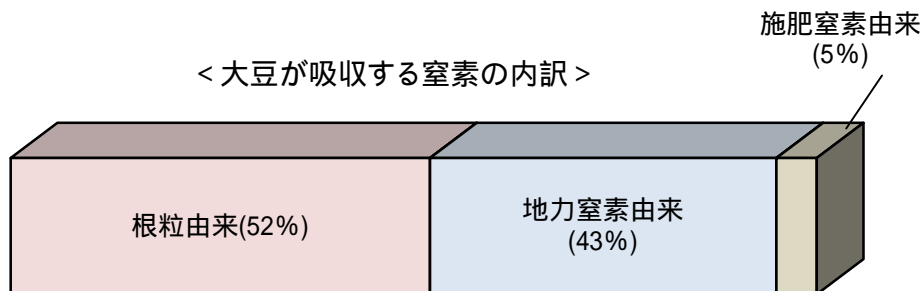
1 大豆好みの土づくりを

- 排水の良好なほ場が第1条件。 (湿害防止)
- 有機物の積極的な施用「堆肥や鶏ふんなど」。 (土づくり)
- 苦土石灰(100kg/10a)を施用 (酸度矯正)
- 基肥の基準施用量(10aあたり)は、
窒素2~3kg、りん酸6~8kg、カリ10~12kgです。

- ・耕うん・整地はていねいに行い、耕深15cmを確保しましょう。砕土率が高い(表層が細かい)ほど出芽が安定し、除草の効果が高まります。
- ・苦土石灰は、酸度(最適pH6.0~6.5)を矯正し、根粒菌の働きを活発にする効果があります。

2 有機物を入れて地力を高めよう

大豆は地力依存度が高い作物であり、子実生産の90%以上を地力と根粒由来の窒素に依存しています。従って、地力や根粒活性が低下すると、稔実莢数や百粒重の減少により収量が減少します。堆肥などの有機物を積極的に投入しましょう。



3 湿害対策

耕起前に、ほ場周囲に明きよを掘り、確実に排水溝につなぎ、播種後は、ほ場の中央にも深さ30cm程度の溝を掘るなど、排水対策は万全に行いましょう。

「小畝立て深層施肥播種技術」の実演会のご案内

排水対策と増収が期待できる「小畝立て深層施肥播種技術」の実演会を下記のとおり行われますので、興味のある方は各普及課へご連絡ください。なお、天候等により日程が変更になる場合があります。

6月5日 長井市川原沢 連絡先 西置賜農業技術普及課 TEL88-8215
 6月9日 米沢市窪田 連絡先 置賜農業技術普及課 TEL57-3411

4 播種作業

播種量 4 ~ 6 kg / 10a (品種・播種時期に応じて)
播種時期 5月20日 ~ 6月10日まで
種子消毒 粉衣処理等 (忌避剤、殺菌・殺虫剤)

品種や播種時期に応じた栽植本数を確保する。

例) 畦幅65cm × 株間20cm × 2本立て = 約15,400本 / 10a

畦幅75cm × 株間20cm × 2本立て = 約13,300本 / 10a

ネキリムシ類 (タマナヤガ) の発生は平年並と予想されています。

成虫は広葉雑草などに産卵するので、播種前からほ場周辺の除草に努めましょう。

5 雑草対策

例年、雑草害が減収の大きな要因になっています。耕種的防除と除草剤を上手に組み合わせさせて雑草から大豆を守りましょう！

耕種的防除は適期・適作業が肝心！！

適期の播種で生育量を確保 (葉の陰になるだけで光不足で雑草はかなり抑えられます)

適期中耕培土 (適期に行うためには、排水対策も重要です)

除草剤をしっかりと効かせるための ” 3つのポイント ”

砕土率を高める！

ゴロ土が多いと、その陰の部分に除草剤の処理層ができず、そこから雑草が発生します。(目標砕土率70%以上)

タイミングを逃さない！

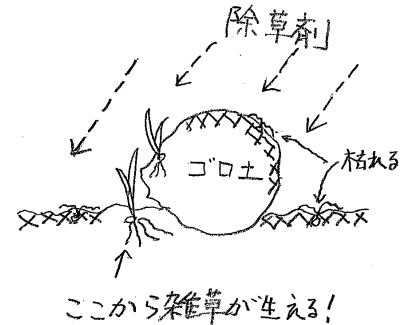
播種後速やかに除草剤を散布しましょう！

播種した瞬間から、大豆と雑草の競争は始まっています。

ほ場の水分状態を確保する！

畑の除草剤は水田用とは違い、水たまりでは効きません。

ほ場が極端に乾燥している場合、粒剤の効果は劣ることがあり、除草剤の層 (処理層) 場合に乳剤などを散布する場合は登録範囲で多めの水で散布しましょう。



ほ場の周りにアサガオのような雑草はありませんか？

近年、外国から侵入した「帰化アサガオ類」が大発生し大変な問題になっています。

置賜管内の一部大豆ほ場でも発見されています。

帰化アサガオには、丸葉のものやオレンジの花のものもあります。

はじめは、ほ場周辺から発生することが多いようです。

これを見つけたら早めに防除してください！

刈り取る ~ 花が咲いたら直ちに防除・種子を作らせないこと！ ~

・地際から刈り取ってください。(再生防止)

・刈り取った草を放置しない。(種子は後熟します)

除草剤を使用する



ホシアサガオ(帰化アサガオの一種)

STOP!

農作業事故

事故防止には、作業者が、高い安全意識を持ち、可能な限り複数で作業を行うことが重要です。

